



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

## 5. イチゴのヒラズハナアザミウマに対する薬剤の殺虫効果の現状

[要約]

イチゴに発生するヒラズハナアザミウマに対して殺虫率が低下している薬剤があり、いずれの産地においても効果的な薬剤はスピノエース、ディアナSC及びグレースシアである。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

アザミウマ類は薬剤抵抗性を発達させやすく、効果の高い薬剤が年々減少傾向にある。県内のイチゴ産地では、アザミウマ類の発生が多く防除に苦慮している。そこで、主要産地のイチゴに主に発生しているヒラズハナアザミウマを採集し、それらに対する各薬剤の効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. インゲンの葉を用い、葉片浸漬法で各薬剤の死虫率を求め、殺虫効果を評価した。
2. ファインセーブとモベントは、すべての圃場で殺虫率が低い（表1、2）。
3. カスケードとマッチは、殺虫率が高い圃場と低い圃場が混在している（表2）。
4. モスピランの殺虫率はほとんどの圃場で高いが、一部の圃場で低い（表1）。
5. スピノエース、ディアナSC及びグレースシアは、すべての圃場で殺虫率が高い（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 薬剤感受性の低下を防ぐために、IRACコードを確認して同一薬剤の連用は避け、ローテーション防除に努める。
2. 天敵や防虫ネットを積極的に活用するなど、化学農薬への依存度が少ない防除を実施する。



## [具体的データ]

表1 各産地のイチゴに発生したヒラズハナアザミウマ雌成虫に対する各種薬剤の効果(2022年)<sup>z</sup>

IRAC コード	供試薬剤名(剤型)	希釈倍数	採集地							
			岡山①	岡山②	岡山③	倉敷	井笠	東備	津山	
4A	モスピラン(顆粒水溶剤)	2,000	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5	スピノエース(顆粒水和剤)	5,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5	ディアナSC(水和剤)	2,500	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
30	グレーシア(乳剤)	2,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
34	ファインセーブ(水和剤)	1,000	×	×	×	×	×	×	×	×

<sup>z</sup> ◎は補正死虫率90%以上、○は89～80%、△は79～70%、×は69～0%

表2 各産地のイチゴに発生したヒラズハナアザミウマ2齢幼虫に対する各種薬剤の効果(2022年)<sup>z</sup>

IRAC コード	供試薬剤名(剤型)	希釈倍数	採集地						
			岡山①	岡山②	岡山③	倉敷	井笠	東備	津山
15	カスケード(乳剤)	4,000	×	×	△	×	◎	△	×
15	マッチ(乳剤)	1,000	×	○	○	○	○	◎	◎
23	モベント(水和剤)	2,000	×	×	×	×	×	×	×

<sup>z</sup> ◎は補正死虫率90%以上、○は89～80%、△は79～70%、×は69～0%

## [その他]

研究課題名：イチゴのアザミウマ類に対する天敵防除体系の確立

予算区分・研究期間：交付金・令4～6年度

研究担当者：西優輔